20 水神様の大杉

伝説によると、或る年近くの家が火災にあった時のことであるが、遠くから夜目に見ると、誰とも知らぬ多くの人が、その燃えている屋根の上を走り廻っているのが見えて忽ちその火を消し止めた。行って見るとその家は留守で誰もいかなったし、近所の人も来ていなかったということだ。それで誰いうとなくあの燃えている家根の上の人達は『水神様』だといって、一層崇められるようになりそのためか落葉も焼くことを禁ぜられて、川に流したということだ。

それが数十年前また近くの家が火災になりこの度はその家と一緒に、大杉の本幹の上部が焼けてしまった。そしてその焼けて枯れてしまった本幹が、長くそのまま風雨にさらされて立っていたが、段々風に折れ落ちる危険も感じられるようになったので、根もとから新幹も生え立つことだし。と新幹を残して枯れた上部だけ伐りとったのである。